

松高の丘に三たびの春がめぐってきました。3年前、胸ふくらませて入学してきたあどけない少年少女が、今や凛々しい若者となって学舎を巣立とうとしています。

やわらかな春の光がふり注ぐ今日の佳き日に、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、本校第45回卒業証書授与式を挙行できますことは、大変光栄であり、卒業生・職員を代表して厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお慶びを申し上げます。皆様方には、PTA活動や学校行事を通して献身的に力強いご支援をいただき、改めて深く感謝申し上げます。

18年に及ぶ子育ては、人には言えぬ悩みやご苦労も多かったことと存じます。そして今、親として一つの区切りを迎えられ、責任を果たし終えた安堵感と、同時に我が子を手放すことの寂しさを感じておられるのではないのでしょうか。

さて、栄えある卒業証書を手にした109名の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは入学以来、学習や部活動、さまざまな学校行事を通して、松高生らしさを十分に発揮し、後輩たちに松高精神を引き継ぐと共に、数々の活躍で母校の発展に力を尽くしてくれました。心から感謝と賞賛の意を表します。

ここで、第45回生の門出に際し、三つの饞のことばを贈ります。

一つは「**心優しく気高く生きよ**」ということです。

皆さんが生まれた平成2年から3年にかけては、バブル景気がはじけて失われた十年へと続く大きな転換期に当たります。物心がついたときには平成不況に見舞われ、閉塞感が漂う時代でした。一方で、消費社会の中で情報化が進み、経済性や効率性を優先する経済至上主義がまかり通る時代でもありました。その延長線上で、目先の利益に惑わされマンションの耐震偽装や食品偽装事件が起きました。世の中の人々の心の荒廃が叫ばれるようになったのもその頃からです。

これからの我が国を支える皆さんにはぜひ、日本人としての品性を取り戻し、互いに思いやりいたわり合う中で、常に謙虚で、人の役に立つことを喜びとする誠実な人になってほしいと願っています。

二つ目は「**豊かなことばの使い手となれ**」ということです。

私が教師に成り立ての頃と比べると、最近の高校生は発表能力に優れ自分の考えを伝えることがうまくなったような気がします。ところがよく観察してみると、一方通行の伝達に終わり、相手のことばを受け止めて上手に投げ返すといったコミュニケーションが成立していないことに気づきます。

豊かなことばの使い手は、対する人の内面風景に思いを馳せそれに応じたことばの交流ができる人です。そのことを通して互いの信頼関係が結ばれ、良好な人間関係が築かれます。その輪が広がれば、きっと住みよい社会となるはずです。

特に女子の場合は、将来子どもを授かったとしたら、胸に抱いた我が子にどんなことばを掛けるか、幼な子にとって最初の国語の教師としてその役割は大変重要だと思います。

三つ目は「**郷土松浦を愛し続けよ**」ということです。

悠久の歴史と自然の豊かさや人情の地に松高はあります。住み慣れた故郷に残る人、遠く離れた異郷の地に旅立つ人、人生の岐路に立つとき想いはさまざまですが、郷土の自然は、いつも温かく迎えてくれます。かけがえのない山と海、川と街、そして心優しき人々のことを、決して忘れないでください。そしてできることなら将来故郷に戻り、郷土の発展に力を尽くしてもらいたいと願っています。

最後に、卒業生の想いを込めた自作の短歌を一首、

十八年 あふるる感謝の思い込め 母に手渡す卒業証書

お別れにあたり名残は尽きませんが、卒業生の皆さんの活躍と幸せを心から祈り式辞といたします。

平成21年3月1日

長崎県立松浦高等学校長 北 浦 剛 資